



理事長のちょっと寄り道

「春風接人」



築100有余年の実家。父、母、そして兄が亡くなり、一人頑張っていた義姉も病を得て介護施設にお世話になっている。空き家となった実家に「春風接人」の額がかかっている。確か私が小学6年生の頃からあったように記憶している。父の好きな言葉で名のる書家に揮毫してもらったものらしい。そういえば父の激昂した姿は記憶がない。背中を丸くして何かと相談に来る村人たちの話を傾けている姿を思い出す。

「春風接人」、私も父の亡くなった年になり漸く言葉の意味が分かりかけてきたように思う。かく在りたいと思っている。ところが、最近「春風接人」の後に「秋霜自肅」と続いていることを知った。幕末の儒学者佐藤一斎(1772~1859)が記した「言志後録」の中に記されているらしいのだ。春風を以て人に接し、秋霜を以て自ら肅しむ、「人には優しく己には厳しく」よりも更に深い意味がありそうだ。

どのような嫌な相手でも腹を立てずに笑顔で接すること、仕事などで予想以上の成果を上げて慢心することなく冷静に自分を律し、さらなる高みに向かって努力すること。自分中心でなく相手の立場に立って自分を客観的に見つめることのできる慎み深い人になりなさいと。

父が「秋霜自肅」と続くことを知っていたか否かは図り知れないが、とかく「他には厳しく、己には優しく」なりがちな自分を振り返るよい機会となった。「お前もやっと少しは解るようになったか」父の声が聞こえてきそうな気がする。

お知らせ

●「親なき後」連続講座・すまいる相談会開催!

毎年開催しているすまいる相談会ですが、今年は富山県金融広報アドバイザー上田亨氏をお迎えし、「親なき後」連続講座を同時開催いたします。

10月7日、尾崎順子氏の講座からスタートし、残り3回の講座につきましては、若干名の参加申し込みを受け付けていますので、地域生活支援センター相談支援事業所すまいる(☎0766-68-3820)までお問合せください。



富山県金融広報アドバイザー 上田亨氏による
『親なき後』連続講座

「70代以降に達して、生活で直面する課題は、年金、介護、医療、相続など多岐にわたります。これらに備え、安心して暮らすためには、早めの準備が必要です。本講座では、専門家の視点から、具体的な対策を学びます。」

10月7日(日) 13:30~15:00
10月14日(日) 13:30~15:00
10月21日(日) 13:30~15:00
10月28日(日) 13:30~15:00

会場: 地域生活支援センターすまいる(富山県富山市南町1-1)

富山県知的障害者生活サポート協会 総務事業
令和2年度
すまいる相談会

10月 7日 21時
11月 11日 25時
12月 9日

時間: 17:30 ~ 19:00
すまいる相談会 19:00 ~ 20:00

会場: サポートプラザ 富山駅前 (富山県富山市南町1-1)

●山田愛さん 就労先より勤続10年表彰受賞!

平成22年10月に入社し、今日までの10年間の勤務を讃えられ山田愛さんが就労先のたち建設株式会社より表彰を受けました。本人も気持ち新たに頑張っていくことを決意しました。たち建設株式会社の皆様には、あたたかく受け入れてくださったことに感謝申し上げます。



●公益信託 飴久晴 富山社会福祉支援基金より 助成いただきました



エルハート城端では、飴基金の助成をいただき、洗面台とドアの改修を行いました。感染症予防対策として、どうしても手洗い場を増設したかったところ、飴基金による助成をいただき、使いやすく清潔な手洗い場にすることが出来ました。基金助成に感謝申し上げ、皆で大切にさせていただきます。

編集後記

実りの秋を迎え、さまざまな味覚を楽しめる季節になりましたね。コロナ禍でうち時間が増え、コロナ太り?と感じているのですが、美味しい旬の食材をみるとつつい手が伸びてしまいます。今しか味わえない旬のおいしさを思う存分味わいながら、日々増していく食欲とたたかっている今日この頃です。(マロン)

広報



となみ野

通誌
第24号
令和2年10月
発行

社会福祉法人手をつなぐとなみ野 〒932-0833 小矢部市綾子 5598 番地 TEL・FAX (0766) 68-3822
e-mail: tonamino@bz03.plala.or.jp http://www.tonamino.or.jp/

新たなかたちの「共生型」 「共生型デイサービス事業所 ぴーすあけぼの」 工事はじまる



令和2年10月14日、「共生型デイサービス事業所ぴーすあけぼの」新築工事安全祈願祭が法人本部事務所隣接の建設予定地にて行われました。

1階は高齢者の通所介護事業と障害者通所生活介護事業からなる共生型デイサービス、2階は知的障害者のグループホーム(夜間支援付き)の事業所です。

利用者・保護者の高齢化が進む中、親との生活から自立し、地域で「自分らしく生きる」を応援し、就労継続B型事業所での作業が困難となった利用者には共生型デイサービス事業所で通所介護の高齢者と共にゆったりと過ごしていただくなど地域に密着した、切れ目のない支援を目指して参ります。

また、避難スペースを設け、災害時、高齢者・障害者の福祉避難所としての機能を兼ね備え地域貢献も果たしていきたいと考えています。工事の完成は令和3年3月の予定です。

これまで何かとご支援ご協力いただいた関係各位、地域の皆様にご感謝申し上げますと共に、今後ますますのご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

私たちも コロナウイルス感染拡大予防対策に 全力で取り組んでいます

皆さんご存じの通り、令和2年度のスタートは、コロナウイルスの感染拡大防止のため様々な事が制限されてきました。

こんな時こそ、法人一丸となって、感染拡大防止のため工夫をこらし、活動を続けています。

◆マスク着用による飛沫防止

日常的に利用者・職員共にマスク着用をしています。



◆アクリルパネルによる飛沫防止

対面で行う作業ならびに昼食時等にはアクリルパネルを設置しています。



◆ソーシャルディスタンスの確保

利用者同士の距離を確保しながら作業を行っています。また人と人との間隔をあける目安となるよう床に足型を示しています。



◆毎朝の検温チェック

登所時に、検温チェック。
検温には非接触型体温計を使っています。



◆来客者の検温ならびに手指消毒

来訪者の方についても、マスク着用や検温、手指消毒の徹底をお願いします。いつどなたが訪れたのかを日々記録しています。



◆厚生センターによる現地相談会

10月6日、富山県砺波厚生センターによる新型コロナウイルス感染症に関する出前相談会を行いました。講師に感染管理認定看護師の荒俣ゆかり氏をお迎えし、各事業所からそれぞれ代表職員12名で話を伺いました。

講師の方には、あけぼの第二作業所の状況を見てもらい、気付いた点等を教えていただき、その後は、職員の質問にきめ細やかに回答して下さいました。

これからの季節、インフルエンザ等、他の感染症の予防徹底へ向けて職員の予防意識向上につながりました。



◆昼食時のスクール形式での着席

昼食、アクリル板のないテーブルでは、スクール形式で着席して食べています。



◆各所でマスクの製作・販売しています

コロナ禍で布製品を取り扱う作業所では、自主製品にマスクがラインナップされました。

各所ならびに、本部でも一部販売しています。今や必需品となったマスク、ぜひお気に入りの一枚を見つけてください♪



◆手指ならびに作業環境の消毒の徹底

登所時、休憩前、昼食前等、タイミングを見て手指消毒を行っています。また多数の人が触れるテーブルやドアノブ等の消毒も定期的に行っています。



サポートぷらす移転しました

8月、砺波市十年明にて事業を行っていた生活介護事業所サポートぷらすが、砺波市三郎丸にある現在休止中となっている南天桐のへ移転しました。

広くなった事業所の中で、ミニ運動会を開催しました。フライングディスクやボールの的あて、輪投げなど各コーナーで全身を使って楽しみました。

最後に閉会式を行い、皆それぞれに頑張った事を報告しあいました。

